

編

輯

後

記

本学は、本年四月から文学部と家政学部の二学部となつた。したがつて本誌の編輯ならびに発行は、福岡女子大学文学部で行われることになつた。

これを機に編輯委員も更迭した。旧委員の倉野、村井、小島の三氏は、本誌の創刊ならびに育成のため、長年尽力された。その結果としてここに第九号を送ることができるのである。三氏の後をうけついだわれわれ新委員は、前任者と同様の努力を惜しまない覚悟である。けれども自己の能力を考へるとき、本誌をよきものになし得る自信はない。はなはだ虫のよい考えであるが、内外の多くの方々が、忌憚のない批評や遠慮のない希望を、編輯者に寄せられることを望んでいる。そういう鞭達のない限り、無能な新委員たちは、今もそうであるが、いたずらに春眠をむさぼつてゐることであらう。

笹月清美教授が春を待たずに逝かれたことは、逝く春を惜しんでいるわれわれに、ひとしお惜別の想いをおこさせる。ここに本誌は、教授にささやかな追悼を捧げる。追悼に当り、快く執筆をお引き受け下さつた方々に、感謝の意を表する次第である。

昭和二十九年六月二十五日 印刷
昭和二十九年七月一日 発行

文芸と思想 第九号

福岡県香椎町 福岡女子大学文学部

「文芸と思想」編輯委員

目 加 田 さ く を

編輯者 福 間 欣 一

三 浦 進

発行者 福岡女子大学文学部

印刷者 間 茂 樹

福岡市渡辺通四丁目

印刷所 秀巧社印刷株式会社